東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年4月20

ハラールな生き方

親愛なるムスリムの皆様

イスラームの教えを生き方の規則としてとりあげるなら、イスラームが単に食べ物についてではなく、生き方全てにおいて「ハラール」を命じていることを見ることができます。したがってムスリムの生き方は「ハラールな生き方」と定義することが可能です。これは単に食べ物飲み物がハラールであることを意味するのではありません。生計、職業、日々の生き方、そして消費を行っている場所もすべて、ハラールの範疇であるべきなのです。

このため、ムスリムとして、稼いだものを正しい権利とするべく労働すること、努力することがハラールな生き方への第一歩です。クルアーンで、そして預言者さまの多くのハディースで、ハラールの手段で生計をたてることは義務である崇拝行為と同じくらい重要なものであることが指摘されています。崇高なるアッラーは雌牛章で「信仰する者よ、われがあなたがたに与えた良いものを食べなさい。そしてアッラーに感謝しなさい。もしあなたがたが本当に、かれに仕えるのであるならば。」（雌牛章１７２）と仰せられています。預言者さまもハディースで次のように命じられています。「義務である崇拝行為を実行した後、ハラールな手段で糧を得ようと努力することが義務とされました」

ハラールの範疇で生きるために、クルアーンとスンナが私たちに示しているラインを超えないことが必要です。預言者さまの表現として「ハラールであるものは明らかであり、ハラームであるものも明らかである」とされていることを考えるなら、このラインの内側にとどまることがムスリムとしての生き方の原則です。だから家で、職場で、市場で、家族や親戚との関係で、人々との関係で、要するに生活のあらゆる場面で、イスラームの原則に従う注意深さの度合いによってムスリムとしての生き方を確かなものとすることができます。

このようにして私たちムスリムは、ハラールという言葉が食べ物のうえのシールである以上に、生活全体を崇拝行為と変える一つの生き方を示すものであることをより深く理解し、クルアーンで述べられているイブラーヒームさまの言葉をよりよく理解することができます。「わたしの礼拝と奉仕、わたしの生と死は、万有の主、アッラーのためである。かれに同位者はありません。このように命じられたわたしは、ムスリムの先き駆けである。」（家畜章１６２－１６３）

この言葉が示すように、もし一人のムスリムの人生が諸世界の王であるアッラーのためであるなら、その時にはその人はアッラーのご満悦を得る形で生きるでしょう。誰かの権利を侵害したりせず、公正に振る舞い、貧者や孤児、身寄りのない者を助け、子供たちをイスラームの道徳に基づいて育て、彼らをイスラームに適した生き方に備えさせることなどがここで指摘した合法な生き方の礎石である。約束を守ること、信託を守ること、人々を侮辱しないこと、人々に害を及ぼすことをしないこと、人々が害を受けることを考えもしないことといった基本的な態度や道徳のあり方も、ハラールである生き方の原則です。この意味で私たちはアッラーの次の警告をいつでも意識していましょう。「人びとよ、地上にあるものの中良い合法なものを食べて、悪魔の歩みに従ってはならない。本当にかれは、あなたがたにとって公然の敵である。」（雌牛章１６８）「あなたがた信仰するものよ、アッラーがあなたがたに許される、良いものを禁じてはならない。また法を越えてはならない。アッラーは、法を越える者を御愛でになられない。」（食卓章８７）